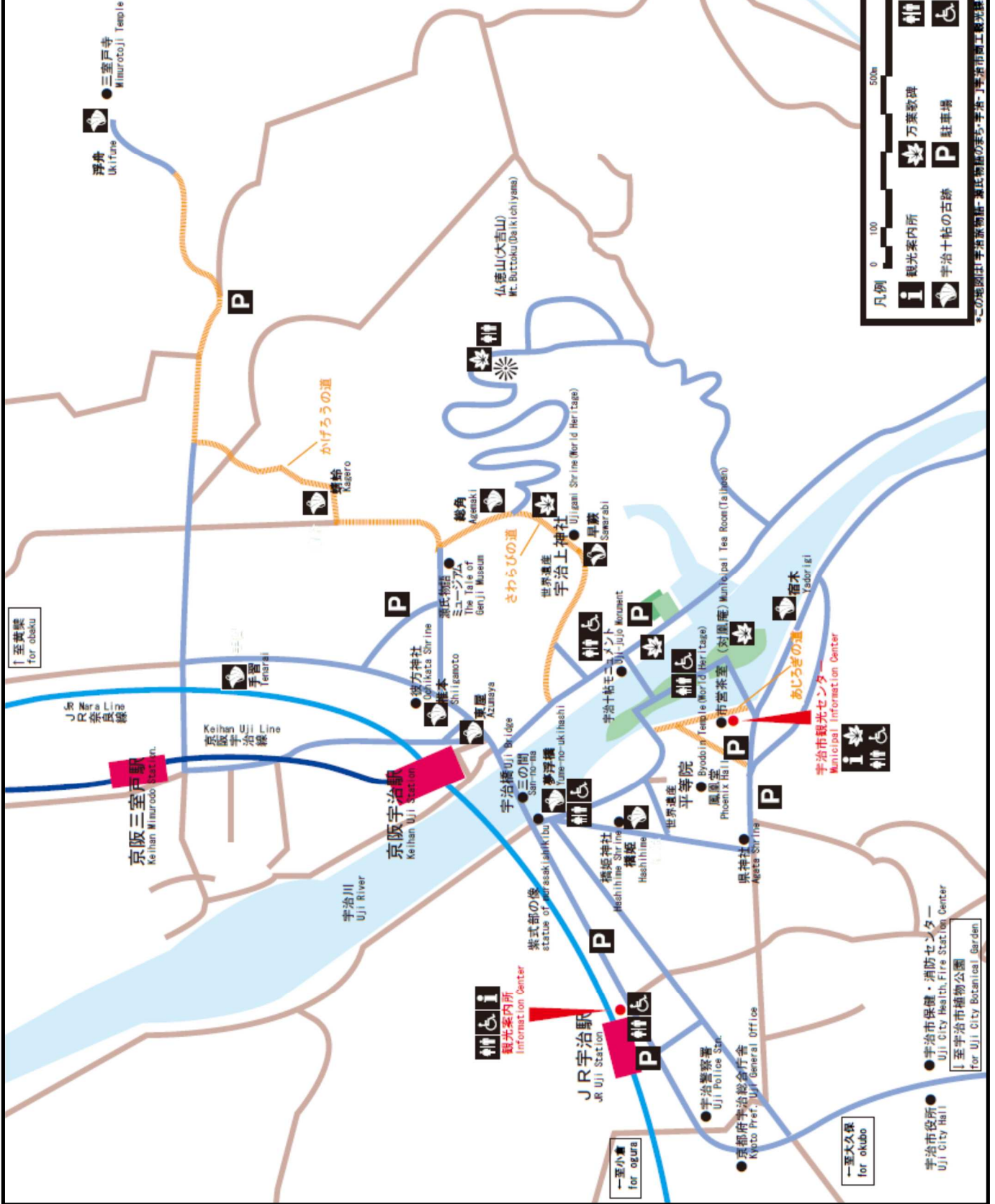


源氏物語「宇治十帖」古跡 (宇治十帖モニュメント)

宇治橋周辺地域



凡例

- 親光案内所 (Information Center)
- 手洗い (Restroom)
- 身障者用トイレ (Toilet for disabled)
- 観光案内所 (Information Center)
- 万葉歌碑 (Manyo Karafuchi)
- 駐車場 (Parking)
- 宇治十帖の古跡 (Remains of Uji Ten Chapters)
- 眺めの良い場所 (Scenic spot)
- 源氏物語散策の道 (Genji Monogatari Stroll Route)

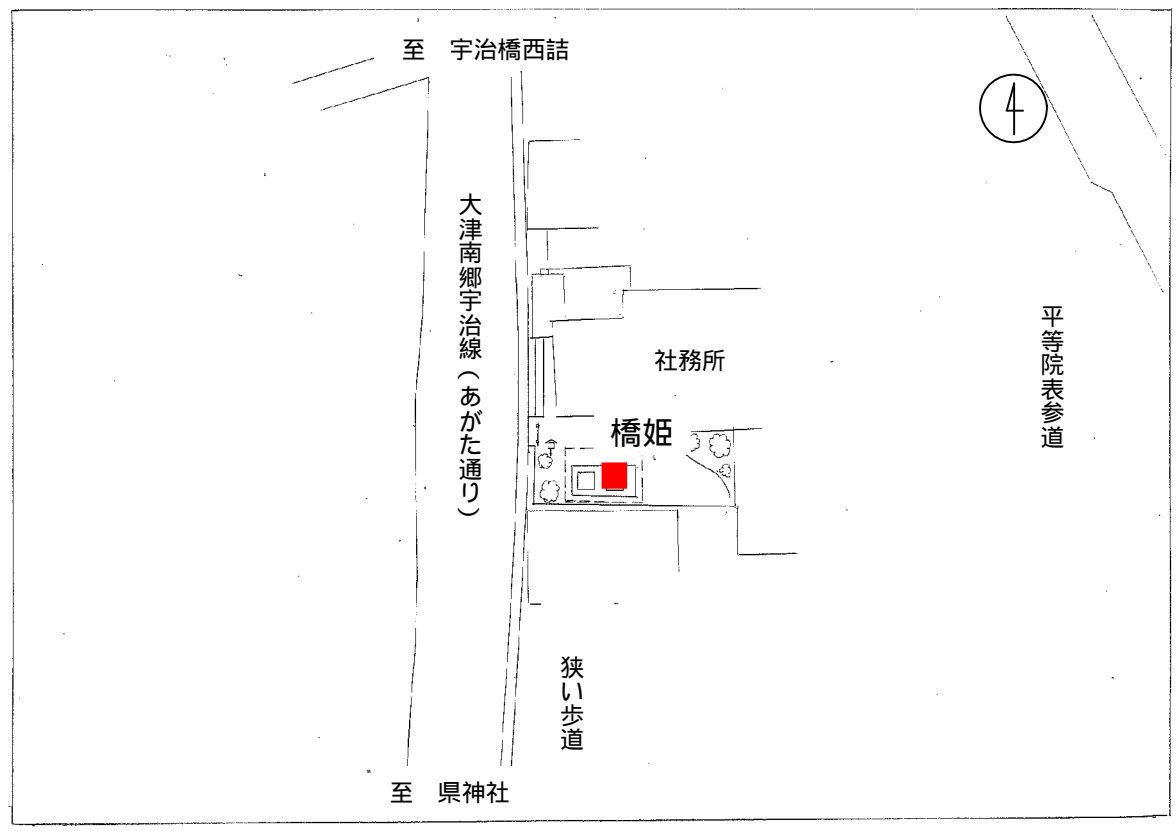
0 100 500m 1000m

この地図は「宇治藩物語」源氏物語のまち・宇治」宇治市観光工務局製作の地図を基に作成しております。

橋 姫 (第四十五帖) 【橋姫の心をくみて高瀬さす 棹のしづくに袖ぞ濡れぬる】(薫)	
所 在 地	宇治市宇治蓮華
古跡の状況	<small>あがた</small> 県通りに沿った狭い歩道から鳥居に入ると、こじんまりした境内に、橋姫神社と住吉神社の二つの社殿が覆屋の中に納まっているこの橋姫神社が古跡。 車椅子は表参道からの進入も可。

《 詳細情報 》

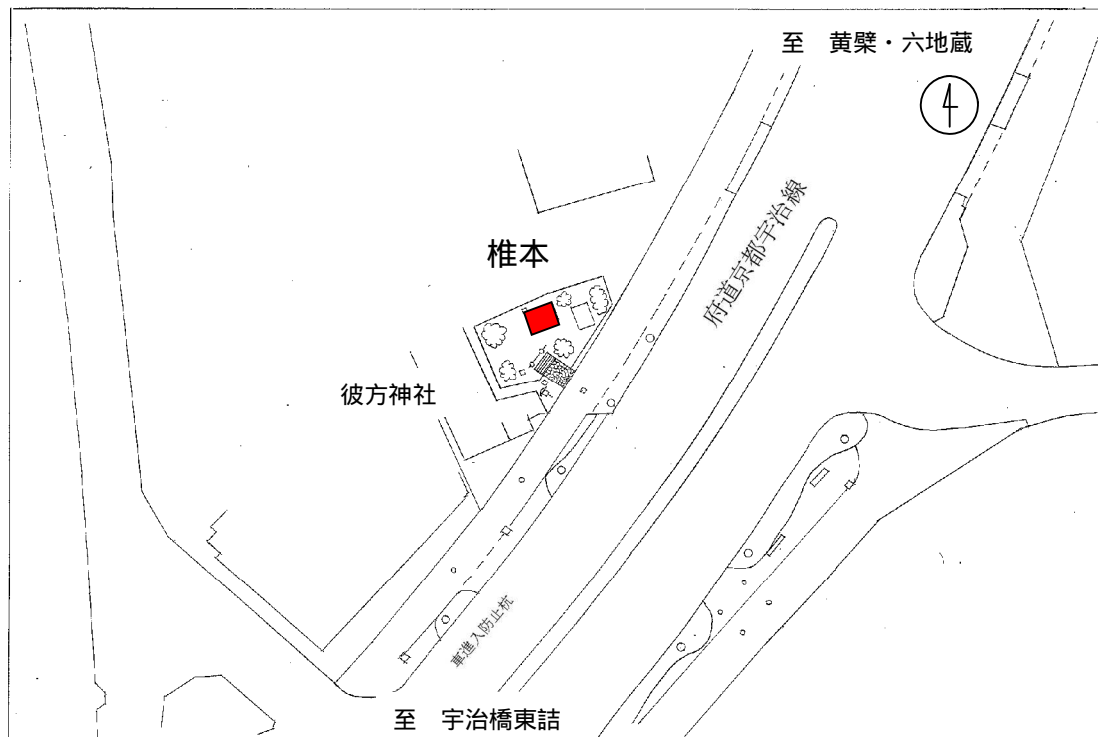
宇治橋西詰よりあがた通りを南へ約80mの所。
歩道狭い(1.0m~1.4m)。電柱・ポスト等有り又溝蓋上の通行で車椅子は振動を受ける。
表参道(平等院前)から細い脇道よりあがた通りへ出ても行ける。
神社入口に5cmの段有り。又境内砂利敷きのため車椅子の移動は困難。
あがた通りは大型車含む車の通行量が多い。
「説明板」が在り、境内鳥居をくぐったすぐ右に立っている。



椎 本（第四十六帖）	
【立ち寄らむ蔭とたのみし椎が本 むなしき床になりにけるかな】（薫）	
所 在 地	宇治市宇治乙方
古跡の状況	宇治橋東詰（京阪電車駅前ロータリー）よりすぐ、東屋観音に続いて、府道の傍にある ^{あちかた} 彼方神社が古跡。 石段があるので、境内への車椅子進入は出来ない。 府道は、車の通行量が多いが、歩道は広く、車椅子も安全に通行できる。

《 詳細情報 》

「彼方神社」宇治東詰より府道を北へ約 30m の所。
ゆるやかな登り坂の歩道。（自動車進入防止杭在り）
説明板と「彼方神社」の石柱は歩道に面して立っている。
神社内には石敷の登り坂及び6段の石段を登る。
神社内には砂敷の狭い場所で周囲は生垣で囲まれている。



総 角（第四十七帖） 【あげまきに長き契りを結びこめ おなじ所によりもあはなむ】（薫）	
所 在 地	宇治市宇治紅齋
古跡の状況	<p>「さわらびの道」から大吉山への登り口、山麓の樹木の繁る一角に立つ大きな石碑が古跡。</p> <p>車椅子の場合は、登り口のところにある「憩いの場」から間近に見上げることができる。道幅が狭いので車の通行には注意。周辺は樹木に囲まれた静かな環境で、四季折々の風雅な趣がある。</p>

《 詳細情報 》

源氏物語ミュージアム南側入り口より、さわらびの道を少し南へ行った所。大吉山登り口が古跡。

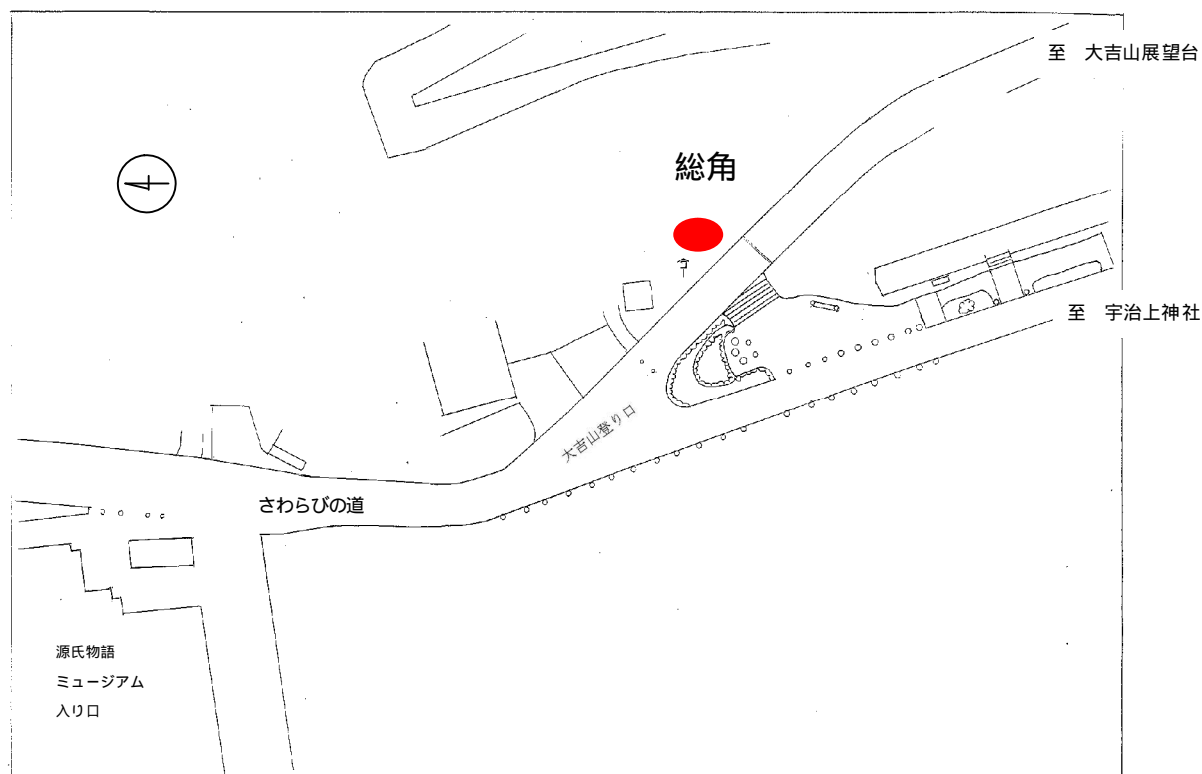
自動車進入防止杭より登り坂。

山の斜面約 2m の所に大きな石碑がある。

説明板も石垣（70cm）の上の高い所に並んで立っている。

車椅子は階段下のフラットな憩いの場が安全。

ベンチ、石の腰掛が設置されている



早 蕨（第四十八帖） 【この春はたれにか見せむなき人の かたみにつめる峰の早蕨】（中君）	
所 在 地	宇治市宇治山田
古跡の状況	宇治橋東詰から宇治川上流へ約 300m、登り坂の「さわらびの道」を約 200m、宇治神社横道に面して立つ小さな石碑が古跡。 間近に朱の鳥居、その奥には山を背にした宇治上神社が見える。

《 詳細情報 》

- さわらびの道・宇治神社本殿横が古跡。
- 石畳スペースの奥に小さな石碑がある。
- 説明板は前に並んで立っている。
- さわらびの道は自動車も通るため通行には注意。



宿 木 (第四十九帖) 【やどり木と思ひいでずば木のもとの 旅寝もいかにさびしからまし】(薫)	
所 在 地	宇治市宇治塔川
古跡の状況	<p>喜撰橋から東へ、旅館が並ぶ道を抜けると、開けた道路脇の生垣に囲まれた中に石碑が立つ。</p> <p>生垣の中は、敷石や砂利で車椅子の進入は難しいが、歩道からでもよく見える。</p> <p>宇治川を挟んで対岸の山々が見渡せる風光明媚な場所。</p>

《 詳細情報 》

中の島公園に架かる喜撰橋から宇治川上流に約 500m の所。

歩道の傍ら、宇治川に面して石碑と説明板が立っている。

古跡内は砂利と飛び石で作られている。

車道は大型車を含む自動車の通行量が多いが、歩道は幅広く整備されている。



東 屋（第五十帖） 【さしとむるむぐらやしげき東屋の あまりほどふる雨そそきかな】（薫）	
所 在 地	宇治市宇治乙方
古跡の状況	宇治橋東詰（京阪電車駅前ロータリー）よりすぐの府道脇にあり、府道と左右の道路に囲まれた石垣上にある石仏（東屋観音）が古跡。 石段を登ってせまい境内に入らねばならないので、車椅子の進入は困難である。

《 詳細情報 》

宇治橋東詰すぐにある「東屋観音」と呼ばれる石仏が東屋の古跡。

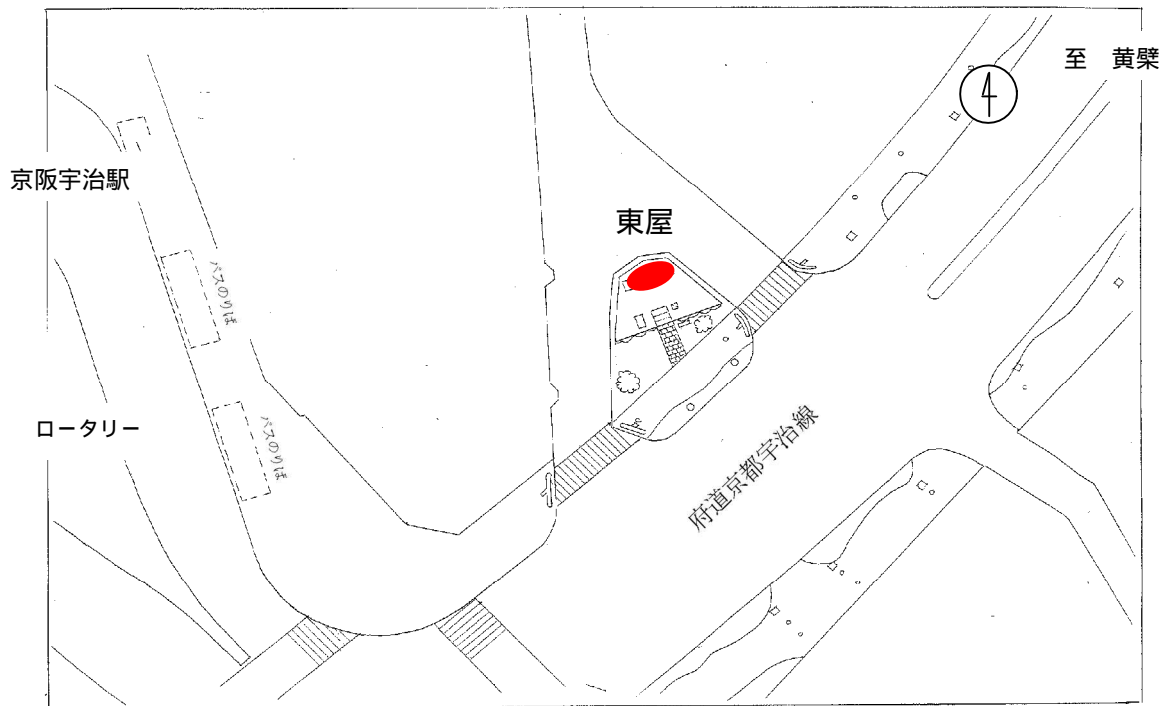
歩道より 3m 奥の 8 段の石段を登ると中央に石仏を拝することが出来る。周囲は石垣で囲まれている。（石段下から拝することもできる）

石仏の他小さな祠、灯籠が左右にある。

説明板は祠の前に立っている。

歩道から石段下まで石畳のゆるい登り勾配になっている。

歩道は自動車進入防止杭・視覚障害者誘導用ブロックが整備されている。



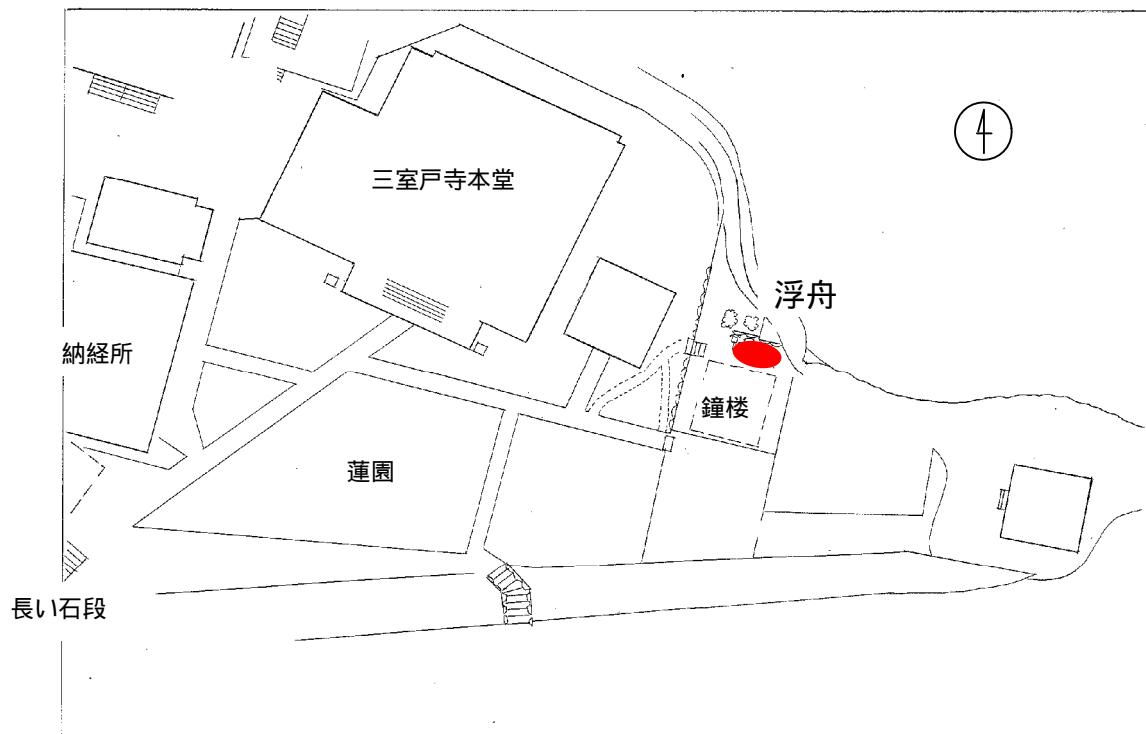
宇治橋東詰

浮舟（第五十一帖） 【橘の小島の色はかはらじを このうき舟ぞゆくへ知られぬ】（浮舟）	
所在地	宇治市菟道滋賀谷
古跡の状況	三室戸寺境内の鐘楼横、植え込みの中に古跡が立つ。山岳寺院のため、境内に入るには、長い石段か、急な坂道を登らねばならない（車椅子では困難）が、境内に入れば平坦である。 * 詳細は三室戸寺の項参照。

《 詳細情報 》

三室戸寺境内に古跡がある。

この古跡を見るには「三室戸寺」拝観のページを参照ください。



蜻 蛉（第五十二帖）	
【ありと見て手にはとられず見ればまた 行く方も知らず消えしかげろふ】（薫）	
所 在 地	宇治市菟道大垣内
古跡の状況	閑静な住宅街の中、三室戸寺へ向かうカラー舗装路の途中にある三叉路の傍、生垣に囲まれた中にある平安時代の線刻阿弥陀三尊石仏が古跡となっている。 車椅子では、生垣の中に入るのは困難であるが、中に入れば手で触れることも出来る。

《 詳細情報 》

源氏物語ミュージアムより北へ約 300m の所で京都翔英高校グラウンドの南側に古跡がある。

小道に面して生垣に囲まれた中に、蜻蛉石と呼ばれる阿弥陀三尊が線彫された大きな石碑があり三尊の解説板が立っている。

敷石、小砂利の敷かれている狭い場所。

説明板は生垣外左側に立っている。

宇治十帖の中で一番優れた平安時代の石碑。

小道は時折自動車が通るため注意が必要。



至 源氏物語ミュージアム

手 習（第五十三帖）	
【身を投げし涙の川のはやき瀬を しがらみかけて誰かとどめし】(浮舟)	
所 在 地	宇治市菟道田中
古跡の状況	府道、京都宇治線の歩道上にある大きな石碑。榎の大木が目印。 整備された歩道で車椅子での移動は安心。 大木の下の植込みに石碑が立つ。3m 幅の広い歩道であるが、古跡のある部分は、1.7m と狭くなっている。 (図参照)

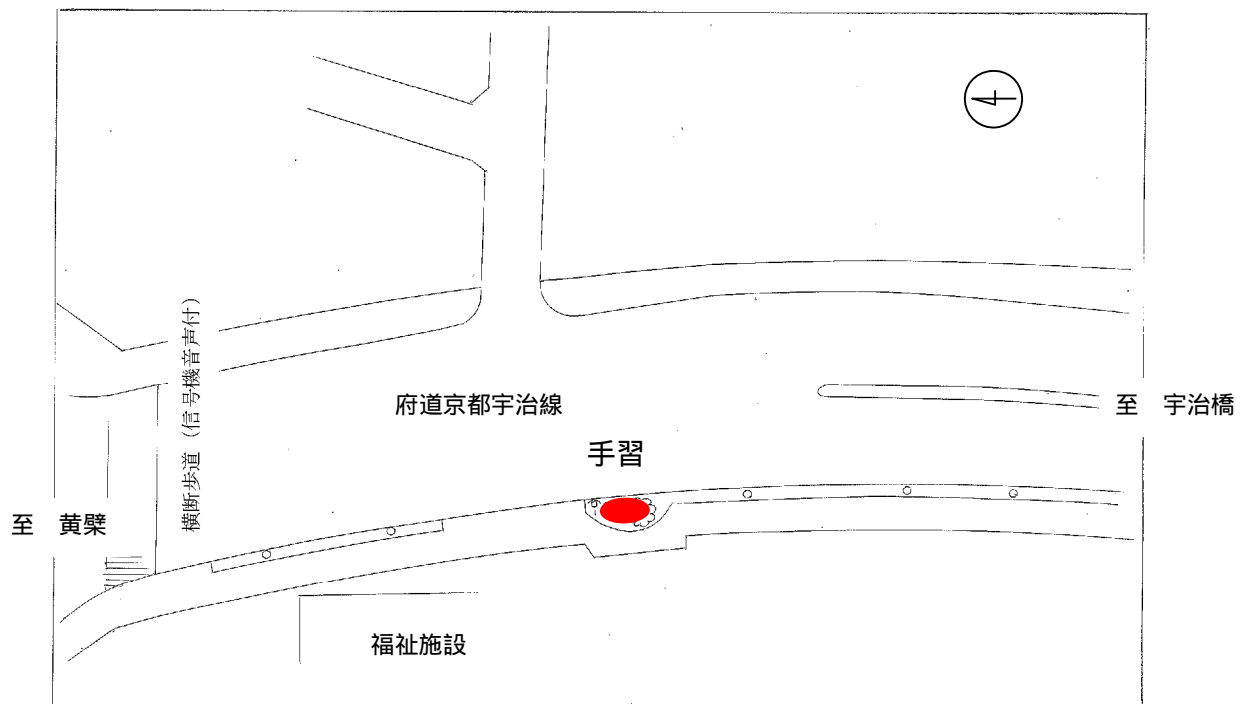
《 詳細情報 》

宇治橋東詰より府道京都宇治線を北へ約 600m の所。歩道の一角が古跡。

榎の木の大木の下への植込みに中に筆の形をした石碑がある。

説明板は石碑の横に立っている。

歩道の幅員は 3m ある。ただし、古跡の所は 1.7m と狭くなっている。



夢浮橋（第五十四帖）	
【法の師とたずぬる道をしるべにて 思はぬ山にふみまどふかな】(薫)	
所在地	宇治市宇治蓮華
古跡の状況	<p>宇治橋西詰めの一角に、歩道と一体化した「夢浮橋ひろば」があり、その中に小さな石碑が立つ。源氏物語最後の帖の古跡。</p> <p>整備された広場で車椅子散策の憩いの場所。</p> <p>ここには、紫式部像、歌碑（明治天皇）のほか、多機能トイレ、水飲み施設、ベンチが整備され、宇治橋を眺める好位置でもある。六叉路の複雑な交差点に面しており、車の音と川の流れる音がひとりのハーモニーをかもし出している場所である。</p>

《 詳細情報 》

宇治橋西詰のトイレの北側にある小さな石碑が古跡。説明板は少し離れた所に立っている。

多機能トイレ、ベンチ、水のみ場が整備されている。

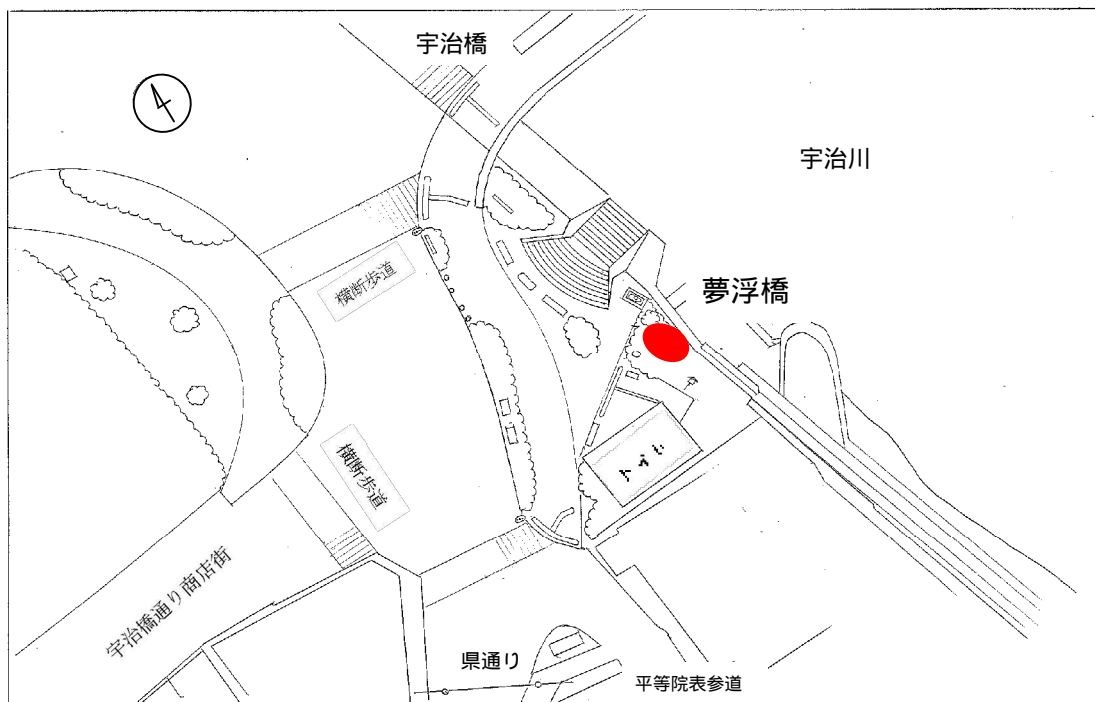
絵巻画の解説板も歩道脇に立っている。

各横断歩道手前に視覚障害者誘導用ブロックの表示がある。

各横断歩道信号機に音声誘導があるが複雑な交差点のため充分注意が必要。

夢浮橋ひろば前の歩道はゆるやかな坂になっている。

河川敷への扇状石階段に柵がないので注意が必要。



宇治十帖モニュメント	
所在地	宇治市宇治又振
モニュメントの状況	朝霧橋を背に、源氏物語絵巻「橋姫」をレリーフした屏風と、橋の小島へ向かう小舟の匂宮と浮舟の像が立ち、ここに宇治十帖の主な登場人物が表わされている。 朱の朝霧橋とモニュメントをバックに、絶好のカメラスポット。若干の段差はあるが、モニュメントの前まで車椅子の進入も可。

《 詳細情報 》

宇治橋東詰より上流へ約 400m の所で朝霧橋東詰の北側にある。

朝霧橋は兩岸共階段になっている。

府道宇治公園線（あさぎり通り）は狭い道路であり自動車も復き来する。

道路からモニュメントまで石畳が敷かれているが他は地道。

道路と石畳に若干の段差がある。

モニュメントの背後には深い側溝があるので注意が必要。

木陰の下に石造りのベンチが配置されている。

